

## 第4回東名遺跡整備指導委員会 議事録

### 【開催日時】

令和6年3月19日（火）14時00分から16時30分

### 【開催場所】

佐賀市立循誘公民館大会議室

### 【出席者】

【委員】 本中 眞・金原正明・赤司善彦・三島伸雄・有岡大介・谷 政司

【事務局】（地域振興副部長）大野和孝

（文化財課長）北島健二 （文化財課副課長）角信一郎

（史跡整備係）西田巖・古賀章彦・馬場晶平・木島慎治

【助言者】（佐賀県文化財保護・活用室）渡部係長・堤主査

【オブザーバー】（佐賀河川事務所）堤専門官

【関係者】（佐賀土木事務所）荒木副所長・古賀主査

（NPO 東名縄文の会）江島理事長・藤原事務局長

（佐賀市建築住宅課）古賀副課長・吉岡主任

（佐賀市教育総務課）福田主査 （佐賀市道路整備課）北村主査

（佐賀市河川砂防課）吉田主任 （佐賀市観光振興課）溝上課長

### 【内 容】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事

### 【報告事項】

- （1）第3回委員会での主な意見とその対応について
- （2）今後のスケジュールについて

### 【協議事項】

- （1）東名遺跡・埋蔵文化財センター建築基本設計について
- （2）東名遺跡屋内展示基本設計について
- （3）東名遺跡屋外展示基本設計について

## 1 開 会

## 2 あいさつ

## 3 委員長あいさつ

## 4 議 事

### 【報告事項】

- (1) 第3回委員会での主な意見とその対応について
- (2) 今後のスケジュールについて

### 【資料を基に説明】

### 【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

- ：基本設計がまとまった段階で、整備全体の構想について、ホームページ上などで公開するつもりなのか。
- ：基本設計段階の整備の全体構想については、なるべく早い段階で公開したいと考えている。
- ：了解した。細かいゾーニングや機能については、今後検討の余地があって少し変わっていく部分もあるが、全体のコンセプト、どういう趣旨の基にどういうことをやっていこうとしているのか、そのことについて市民の支持をもらう必要があると思う。そういう意味での情報公開は非常に重要で、できるだけ早い段階で公開するべきだと思う。
- ：建築工事と屋内展示工事が同時にできるのかが疑問だ。建築工事が終わってから展示工事をするのか。その場合、展示工事と建築工事との切り分けをどのようにするのか。
- ：展示工事は建築工事がある程度終わらないとできない。ただ、展示パネルの作成や造作物の製作作業などについては先行着手が可能なので、スケジュールには、展示工事と建築工事の工期的な重なりが多くなっている。
- ：令和9年度の上半期で建築工事が終わる事になっているが、その段階で展示工事に引き渡すのではないか。
- ：この建築工事期間は外構工事まで含んでおり、建築工事のそのものは、令和8年度に終了する見込みである。建築物として確認申請の検査が終わって竣工した後に、本格的な展示工事が入るという段取りになる。ただ、事前に工場での制作や細かいすり合わせ、施工図を引いたりする期間が必要になるため、スケジュール上、建築工事と展示工事の工期が重なっている。建築工事の期間に先行工事として墨だしを行ったりする部分は重なるが、基本的に竣工してから展示工事を行う。
- ：了解した。
- ：このスケジュール表では細かな部分が分かりにくい。次の委員会では、細かなスケジュー

ールが分かるようにすれば、より共有できるのではないかと思う。

●：建築工事と展示工事の取り合いのところで、いつも問題になるのは展示室の照明工事である。これはぜひとも展示工事側で実施するようにしてほしい。

○：今のところ展示工事側で実施するように計画している。

●：具体的な設計を進める前に、具体的なコンセプトを先に考えた方が良くと思う。この「8,000年前、確かにここにくらしがあった」というコンセプトも、プロセスが正直良く分からない。色々な商品をつくる時に、まず誰に向けて、どんなメッセージを持って、そしてどんな言葉で発信していこうというのが決まってから、パッケージのデザインや商品の大きさなどを決めていく。それが後回しになっているのは、正直不安を感じてしまう。

○：具体的なコンセプトの作成については、できるだけ早めに行いたいと思う。

●：市民の方に発表するというタイミングが来ると思うが、まさしくその時に市民の方たちに、「こういう施設ですよ」と説明をするワードやコンセプトができていないといけないと思う。整備構想を公開する時期が近いのであれば、なおさら急いだ方がいいと思う。

○：了解した。

●：市民に公開するタイミングまでにはできていた方が良かったらう。次回の委員会で合意形成した後に、対外的なコンセプトペーパーを公開するということになるのか。

○：次回の委員会で提案し検討した上で、公表した方が良くと思う。

●：スケジュールの表の中でワーキンググループやワークショップ、体験イベント等は、市民の方からの意見を聞けるチャンスで大変重要だと思う。来年度の計画や内容が決まっているようだったらイメージだけでも聞かせてほしい。

○：まだ具体的なスケジュールリングはできていない。体験イベントやワーキンググループの開催は、早くても5月以降になると思う。早急に計画したい。

●：この委員会や行政の中で検討したことについて、実際市民の方がどういう意見を持つのかということが重要だと思う。この委員会で協議したことを検証するような場が市民との接点の機会になるのではないか。そういう形で少し連動性を持つことができれば、次回以降の委員会も議論が進むのではないかと考えている。

○：連動性が持てるように検討したい。

●：建材や壁紙のガスが落ち着くまでの期間が必要になり、開館が遅れるところも多い。竣工した後もガスが発生するため、途中で改良工事をしているところも多い。そういうところに少し気をつけて進めないとスケジュールが狂ってくる可能性がある。

○：重要文化財の展示・収蔵については文化庁との協議を踏まえ、目安としてコンクリート打設後二夏枯らし期間を取る計画にしている。最終的には基準の数値をクリアする必要

があるので、その辺を考慮しながら進めていきたいと思う。

●：文化庁への申請が絡むと思うが、スケジュールの中に申請時期等を書き込んだ方が良いと思う。タイトなスケジュールで進めているので、どういうタイミングで何を決めておかないと間に合わなくなるのかということも含めて見えるようにするために、このスケジュールを詳細化して次回の委員会に示してほしい。

○：資料の提示については、かなり詳しい内容になってくるので、見せ方も整理した上で作成したいと思う。

●：この「スケジュール（予定）」はざっくりとしたもので、昨年度から引き継ぐ形での提案になっている。もう少し詳しく、少なくとも令和6年の中でどういうステップがあり得るのかということや法的な手続きがどうしても必要になると思うので、その辺もよく見えるようなスケジュール表を次回の委員会で提案してほしい。

情報提供を市民に向けて発信するのは夏以降になるのか。

○：次回の委員会で検討を加えた後になるため、夏以降になる。

●：あまり生煮えのものを出しても誤解を招くと思うので、ぜひ委員会の中でしっかりと合意をつくった上で進んでいくのが一番良いと思う。

## 【協議事項】

(1) 東名遺跡・埋蔵文化財センター建築基本設計について

### 【資料1・2を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

●：資料1-1で、車は一方通行になるのか。説明の中では、敷地の北東隅から関係車両が入ってくるということだったが。

○：図面上は誤解を招くような線の引き方になっていて申し訳ないが、一般車両は敷地の南側から出入りをするようなイメージである。北東側に出入口を設けているが、ここは関係者のみが使用する動線として考えている。

●：敷地の東側と南側には、歩道が図上に記載されていないが、史跡指定地に向かう動線がこの中でうまく収まるのか。

○：現状として東側の道路には、施設の反対側（東側）にしか歩道がついていないし、南側の道路も、施設の反対側（南側）にしか歩道がついていない。

●：施設側に歩道がついていないということは、特に交差点に行くは、車にとっても人にとっても、見通しが利かないことになるし、場合によっては自転車もそこから出てくる可能性があるので、非常に危険だと思う。図示された植栽がこれで大丈夫かなと思った。

○：現状の植栽は単にイメージで、具体的なものではない。

●：実施設計の時はそこに十分に気をつけた方が良いと思う。

○：了解した。

●：資料1-1の施設前広場は、どのような位置づけになるのか。

○：キッチンカーなど、車両の乗り入れが可能な場所として考えている。

●：下地は、どのような施行を考えているのか。

○：本館と史跡地をつなぐ結節点のような広場と考えており、舗装はハードな部材でつくることが検討している。アスファルトやインターロッキング、その他、芝ブロックのような形で、休日にキッチンカーを入れて、市民の方々が気軽に使えるような場所として考えていきたいと思っている。例えば週に1回、朝市をここでやったり、休日のイベントの時には車の乗り入れが気軽にできて、ここで飲食ができたり、そのような位置づけで考えている。

●：了解した。そうすると、縄文体験広場とイベント広場の間に木が立ち過ぎると視界や空間を遮断してしまう。そこはできるだけ低木に抑えて、下地もできるだけ親和性があるようにつくると良いと思う。併せて、イベントを想定するのであれば、この場所にも電源等を取れるようにした方が良いと思う。

○：電源等は設置する予定である。

●：植栽について、あくまでもイメージパースと想定した上で、観光地に行った時に、箱型の施設はどこが入口なのか分からないことが良くあるので、入口は広く明るく大きく見えるようにした方がスムーズではないかと思った。また、多目的室があるが、多目的とはどういったことを想定しているのか。

○：体験学習室と兼用になっている。それ以外に講座や講演会、イベント等で大人数を収容する場所として、またコンサートのような歴史にとらわれないイベントも想定している。

●：歴史や縄文に関わらない文化的な行事や、例えば難易度が高いかと思うが、一般企業向けの会議室等で開放することによって、ここに来訪するきっかけづくりになるのではないかと思う。今後、この多目的の部分幅広く検討すれば、来訪の機会も増えるのではないかと思った。

○：今後検討させていただきたい。

●：多目的室の移動間仕切りは、図の上半分は固定壁になっているのか。移動間仕切りは下半分だけか。

○：現状では、多目的室西側の上半分は固定壁にしている。多目的室の中央に点線を引いているが、この部分が移動間仕切りで、2部屋として使うことができるようになっている。通常は全部開け放して一体で使えるように考えている。

●：第1回委員会の時に意見が出たと思うが、良くこういう多目的室等をつくるが、使っていない時は無駄なスペースになるからということで、移動間仕切りにするという話にな

ったと思うが、上半分が固定になった理由は何かあるのか。可能であればオープンにした方が良いと思う。

○：多目的室を中央で仕切って2部屋として使用するためには、固定壁にした方がやりやすいと考えた。フルオープンも不可能ではないので、実施設計で検討したいと思う。

●：多目的室を使っていない時に無駄なスペースにならないように、移動間仕切りにしてフルオープンになった方が、屋外へのアクセスの部分になるだろうから、見え方も良いと思う。

●：大きく人の動線と資料の動線とあるが、業者さんたちが結構頻繁に来るようになると思うが、物品の動線というのはどのように考えているのか。

○：具体的には考えていない。資料動線と同じようなイメージで考えていた。

●：九州国立博物館には物品の動線がなかったので、弁当の注文をした時などに、どこから入れるのかという話になった。トラックヤードから入れるわけにはいかないし、チラシやイベントのグッズ、あらゆるものが毎日やって来る。通用口から入れると、台車が入らなかつたりするので大変なことになる。今は解消されたが、物品動線って設計段階でなかなか考えない。特に雨の時の時が大変になる。来館者の動線とかぶらないようによく考えて、事務室等に直接入れるようにしないと大変なことになる。

それから諸室についてだが、あまりにも倉庫が少な過ぎて大丈夫かと思う。何かやる時には、そのスペースと同じぐらいの面積の倉庫が要するというのはよくある施設の在り方だが、この平面図には大きな倉庫が1つあるが、ちょっとしたものを置いておく倉庫が全くない。また、この施設で働く人たちはどこで休憩するのか。そういうことも考えておかないと、いろいろ困ったことが後で起こってくる。お弁当はどこで食べられるのか、ボランティアの人はどこで休んで、どこで作業をするのかというのがこの図には見えないので、今後、実際にここで働く人たちがどういうふうに朝から晩まで動いていくかということ考えた方が良いと思う。

○：その辺の詳細については、実施設計で具体的に使用用途を考えながら検討を加えたいと思う。

●：施設の外観はどういうふうになるのか。どの段階で提示するのか。外観のパースぐらいは提示してもよかったのではないか。

○：次回の委員会までには提示したいと思う。

●：了解した。南側のデッキテラスは全て扉が開くような、ガラスのオープンドアになるということか。

○：今のところ、図面上はガラス張りになっているが、全体をガラス張りにするといろいろな問題も発生してくるので、すべてがガラス張りにはならないと考えている。

- ：了解した。やはり倉庫が圧倒的に少ないという印象はある。

#### 【協議事項】

(2) 東名遺跡屋内展示基本設計について

#### 【資料2・3を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局

- ：ROOM1とROOM2について、資料にはインフォメーションウォールとイメージネーションウォールという分け方しかしていないが、ROOM2にも展示ケースがあって、ROOM1にもコの字型の展示ケースがあるということか。それらが動線も含めてどのようにつながるのか。
- ：動線については、まず入口から正面のROOM1に入っていただくイメージである。ROOM1についてはどういう順番で見ると、具体的な動線は設定していないが、ROOM1を見学していただき、左側の方からROOM2を時計回りに観ていただくような動線で考えている。
- ：了解した。ROOM1はケースの中に何を展示するのかが、まだ全然決まっていないということか。
- ：ROOM1について、編みかご自体が大きいものが多いので、大体の想定はしている。
- ：了解した。博物館や資料館に行くと、自分がどの方向に進んでいいのかわからないような混乱が生じる場合がある。うまく動線が整理されていると、自分でも理解が進むということがあるが、その逆もあって、全く規制しないというやり方もある。提示されているものは、自由動線でもないし、規制動線でもない、より混乱が生じやすくなっているのではないかと気になった。
- ：ROOM1については自由動線になっていて、ROOM2については規制動線、順番で見たいと思っている。
- ：まず資料3-1にあるZONE2の探究展示のところで、「映像」というワードが使われている。さらに知識を深めるということで、ある程度知識が深まった方やもともと知識がある方がさらに深まるような映像ということだと思うが、ここに訪れる方は歴史・考古にさほど造詣がない人も対象者にしていると思うので、来た人がこの後展示を見て、「なぜ」を回収するというか、映像を見て感じた「なぜ」とか「何」とかというところを実際の展示で回収するというか、ドラマや映画で回収があるようなつくりにするために、導入のところにもう1つ映像があってもいいのではないかと思った。
- ：誘引展示のところで、「なぜ」という説明したが、確かに展示室のどこでそれを回収するのかということ具体的を示していないので、その辺も含めて検討したいと思う。
- ：次に資料3-1の下段、企画展示で「他市から借用した」と記載してあるが、逆に他市

に貸し出せるほどの重要なものもあると思うが、貸し出しの計画もあるということでしょうか。

○：東名遺跡の遺物については、ほぼ毎年のように他施設に貸し出しをしていて、先日も国立科学博物館に貸し出しを行った。

●：貸し出しをすることが東名遺跡のPRにつながると思うので、借用もそうだが、同じかそれ以上に貸し出しを進めることによって、東名遺跡の知名度や価値が上がるのではないかと思った。

最後に、資料3-1のカフェのところだが、ここは公設民営という考えなのか、公設公営という考えなのか、今のイメージを教えてください。

○：カフェについては、基本的に公設で整備して、民間で運営してくれる方がいないか、今後探していきたいと思っている。

●：恐らく民間が手を挙げるとなると、いろいろと諸条件があったりするだろう。さまざま難しい場面も経験されているかと思うので、民間の方が参入しやすいような条件が付けば良いのではないかと思った。

●：展示室の動線について、先ほど意見が出たように規制動線の方が良いと思う。ROOM2を順番に観た後に、ROOM1の中に入るというぐらいで、最初から自由動線とするのは破綻しかねない、やめた方がよいと思う。

もう1つ気になる動線がエントランスだ。閑散としている時はいいが、イベント時や団体客が来ていると大変なことになることがあるので、その混乱を避けるような方法は常に考えていた方がよい。とりわけトイレが一番奥にあるので、中には走り込むようにトイレに向かう人がいたりする。そういった人たちと団体客がぶつかったり、大混乱になることが想定される。トイレの位置が一番奥にあるが、トイレはもっと主役であるべきだと思う。私が勤めている博物館はトイレが日本一きれいな博物館を標榜している。施設の奥に設置するのはどうかと思う。動線についても一度検討した方がよい。

●：展示室の広さがなかなかピンと来ない。

●：展示室の奥行きは何メートルくらいか。12~13mくらいあるのか。

●：特に ROOM2の横幅はどれくらいか。展示ケースを設置するとなると、どのくらいの幅が確保できるのか。

○：現状だと、展示ケースを除いた幅が2mぐらいになる。展示ケースの幅をどれくらい確保するかによっても変わってくる。

●：博物館等について、施設の中の通路の幅に基準等はないのか。かなり長いトンネル状の空間が10m以上続くが、大丈夫なのか。

○：建築基準法的には問題はない。見学していただかないといけないので、2mぐらいの幅



は確保したいと思っている。

●：やはり ROOM 2 は一方向で回る方が良い。ROOM 2 は起承転結のような形になっているので、導入として先に回ってから ROOM 1 に行くなど、通常の博物館もそういう形が多いかと思うが。

○：ROOM 2 から ROOM 1 に入った方が良いということか。

●：ROOM 2 を概要的に回って、遺跡の全体像が分かった上で、特設展示である ROOM 1 に入った方が良いように思う。

○：最初にインパクトを与えたいという考えがあった。今後検討したい。

●：ようやくボリューム感だとか、どういう機能が必要になってくるのかということが少し整理されてきているが、全体的なコンセプトと、どういうふうに展示にワクワク感を持たせながら流行らせていくのかというところが、パース等も含めてまだ提示されていないので、分かりにくく、どうコメントして良いか難しいところがある。狭い空間を有効活用しなければならないことは分かるが、入口から ZONE 4 に行き、ZONE 1 → 2 → 3 となっているので、順番的にどうかと思う。ラウンジ、エントランスから常設展示室まで、どのようにワクワク感を持たせながら誘っていくのか、こういう展示を置くというのは分かるが、具体的なイメージができないところがあるので、次回の委員会では、もう少し具体的なイメージができるものを提示してほしい。

○：了解した。

●：先ほど意見が出たが、トイレの位置だとか、そこを処理するのはなかなか難しいと思うが、もう 1 度レイアウトを検討してもらえるとありがたい。

●：ZONE 1 から 4 までと、トイレというユーティリティ、そういったもののゾーン配置についても検討してほしいという意見だった。今からそれを全部考え直すことが可能かどうかということも含めて、事務局で検討していただければと思う。先ほどの意見では、エントランスから常設展示室に行くまで、そして常設展示室に入ってから ROOM 1 と ROOM 2 の動線の仕分け、それは基本的に規制動線が望ましいであろうということだった。例えば資料の 3-3 の左上の図では、赤の破線の矢印とグレーの破線の矢印が重なったり、いろんなところから入れるようになっているので、その辺を少し再考していただくことも必要だと思う。

○：グレーの破線の矢印については、もともと建築図にあった想定線を消さないまま、その上に赤の破線をかぶせてしまっているのでは、整理、修正したいと思う。

●：資料 3-3 の 01 と 07 の手前側の部分は壁になっているのか。

○：中央の出入口が自動ドアになっていて、その両脇はガラス張りにしようと考えている。図には記載していないが、ショーウィンドーのような形で、象徴的な展示が行えないかと考えている部分である。

- ：それは、赤の矢印が ROOM 1 に入っていくが、その左右ということか。
- ：その左右で、01 と 07 の図の下方になる。それは展示室の外から見るような、店舗のショーウインドーのようなイメージで考えている。具体的なところまで検討ができていなかったのもので、今回の資料に記載しなかった。
- ：了解した。
- ：先ほど動線を ROOM 2 から ROOM 1 へと回るようにした方が良いというのは、忘れてほしい。先ほど言われたように、インパクトと両方、どちらを選択していくかというのは非常に面白いコンセプトだと思った。この回廊状の展示というのは非常に珍しいと思う。東名遺跡は非常に遺物も豊富で、見飽きない形の順番に展示ができると思う。非常に斬新な展示構成だと思う。
- ：手狭な空間を何とか工夫して展示した形になっていると思う。
  
- ：企画展示室は、日頃どういう使い方をするのか。
- ：展示替えの時はクローズになるが、普段は企画展示を必ず行っているようなイメージで考えている。
- ：ということは、1年のうち10か月は閉まっているということか。
- ：資料3-1に記載しているが、大体年4回程度の展示替えをイメージしていて、展示替えに1週間ほどかかるかと思うが、その時だけは公開できていない期間があるということで、普段は常に展示を行っているイメージである。
- ：了解した。
  
- ：先ほど映像の話があったが、実際いろいろなところへ行くと、VTRが用意されてはいるが、すごく古ぼけていたり、時間が長過ぎて人がそこに滞留し過ぎてしまうなど、いろいろな問題もあると思う。また、モニターをどういうふうにつくるか等、設備と関係する。設置するかどうかから検討すべきではないか。
- ：自分は映像撲滅派だ。映像展示は一度見たらもう誰も見ない。移動できるような仮設のモニターで、その時の最新のものを映し出すのは良いが、常設で使うと、すぐに調整中の貼り紙が貼られていたり、10年後にもものすごい費用がかかってくるので、やめた方が良くいと常々言っている。
- ：隙間に小さいモニター等がいっぱい置いてあるところは、確かによく故障しているのを見るし、正直、面倒くさいと思ったりもする。一方で、先ほど意見があったように、導入部分に分かりやすいものがあると良いと思う。ただ、つくり付けてしまうと更新が難しくなるので、可動式にしたり、プロジェクターを使ったり、分かりやすい映像はあった方が良くと思う。この辺をぜひ検討していただければと思う。
- ：了解した。検討させていただく。

- ：もう1点、運営の件だが、今のところ委託を考えているのはカフェのみか。それとも、もっと幅広い部分まで考えているのか。
- ：具体的に考えているのはカフェのみである。活用面など、どこまで広げられるか、ボランティアスタッフの育成も考えているので、その中でどこまで委託をするのかは、今後の検討課題である。
- ：店側からすると、年間の集客がどのくらいになるかにもよるし、その中で飲食をする人がどのくらいいるのかにもよるが、カフェだけを単独で出した場合、委託先を探すのは苦労すると思う。他の自治体で聞いた話だが、お土産ショップなどと、例えば年間を通じてのイベントや広報業務等を合わせてプロポーザルにしたり、要はうまく出店者側の視点に立たないと難しいと思う。結局委託先が見つからなくて、無償で貸したあげくに、きちんとした運営もされないままというケースになりやすい。だから、その辺はそろそろ方針を決めていった方がいいのではないかと思う。
- ：カフェはショップも合わせてと考えていたが、イベントも含めてというところまではあまり考えていなかったもので、どういうやり方が一番いいか、具体的に検討していきたいと思う。
- ：カフェを委託するのであれば、どこまで制限をつけるのかなどについて、そろそろ判断し始める時期に入ってきているのではないかと思う。「このコンセプトで運営して」と言っ、受けられるところがどれだけあるかなど課題もあるかと思うので、できるだけ早めに方向性だけでも出せればと思う。
- ：この整備事業はどのような形で実施するのか。どこかの支援金を受けるということになるのか。
- ：大きくは文化庁の史跡整備の補助金と、埋蔵文化財センターの部分については、設備だけにしか充てられないが、文化庁の活用の補助金がある。それ以外で、このような整備事業に活用できる財源が限られている中で、防災関係の起債なども含め検討している段階である。
- ：そうすると、先方との協議を行って、どこまでが線引きが可能かということもこれからだということか。
- ：具体的にはこれからである。
- ：了解した。まずは全体のプラン案ができて、具体的にプランを決めていく過程でしっかりと調整、協議をしていくという視点が必要だろう。
- ：今回の提案は、大変良くできていると思う。文化財を分かりやすく伝えようという意図は分かるが、その前に、まず関心を持ってもらうこと、これが一番大事なところだと思う。分かりやすく伝えるのではなくて、関心をどう持ってもらうかということ、そのためにはお客さんに来てもらわないといけない。集客はとても大事で、メニューにしても何にして

も真剣に考えないといけない。人はやはりおいしいものを食べたくて、買いたくて、遊びたいという欲求があって、そういうところも含めてよく考えてほしい。家族や両親でもいいが、具体的な人を想定しながら展示の中身を考えて、誰に何を伝えたいのか、あるいは、子どもでも分かりやすいものをぜひつくり上げていただきたい。

#### 【協議事項】

(3) 東名遺跡屋外展示基本設計について

#### 【資料4を基に説明】

【質疑応答】 ●…委員 ○…事務局 ■…オブザーバー（国交省） □…助言者

▲…関係団体

- ：第1回委員会の時に、現地へ行って、いろいろと議論したことがあったが、その時に、ガイダンス施設から縄文館に至る、青線で引いてある動線のガイダンス施設に近い部分になるが、いかに魅力的に誘導してくるのかという意見があったかと思う。もちろんガイドツアーをして、オーラル・インタープリテーションの観点で、人がエスコートしていくやり方が一番望ましいと思うが、そういうことを使わない人も来るわけだから、誘うような魅力的な空間づくりはとても大事だと思う。委員会でもそういう意見が出ていたように記憶しているが、ここも何らかの修景を実施するということで良いか。
- ：まだ具体的な計画までは至っていないが、確かに行きたいと思わせるような動線でないと厳しいと思うので、今後具体的に検討していきたい。
- ：第1回委員会でも言ったが、調整池を回る動線の景観は雑草類も多く、あまり良くない。そういうところをどう整備していくのか。例えば外来のナンキンハゼが非常に多いなど、いろいろな問題があったと思う。  
縄文の森については調べさせていただいたことがあるが、いろいろな環境の植物が同じ場所に植樹されている。水辺に生育するオニグルミや比較的乾燥地に生育するシイなど、なかなか土壌も薄くて、全体的に環境には合っていない状況で成長している。改善策としては、箱庭的に1つの小さな環境をつくってしまうか、何か考えないと現状のままでは厳しいと思う。
- ：東名縄文館そのものをリニューアルとか、例えば展示品を新たな施設に引き上げるということに伴って、何らかの改修を考えているのか。
- ：東名縄文館がある建物自体は国土交通省の所有物なので、中に置いているものを入れ替えるような形になると思う。現在、展示しているものは新しい施設へ移してしまう。整備については、先ほど資料2で説明したが、縄文装束の貸し出しや、第6貝塚に撒く貝殻を配布する場所であったり、あるいは国土交通省との協議になるが、巨勢川調整池を含む治水事業について、現在もパネル等で解説されているが、そういった防災施設の機能や治水

の必要性を今以上にしっかりと解説していただけたらと思っている。それと、ガイドンスで縄文時代のことを学んでいただくので、東名縄文館では現在の様子を知ってもらうのと同時に、持続可能な社会を目指す意識の醸成を図るような解説などができたらと考えている。

- ：今日は国土交通省がオブザーバーとして参加いただいているが、この件について何か意見があるか。
- ：佐賀市が整備されるガイドンスに、現在、東名縄文館に展示しているものを移した後の利活用も含め、この展示室のある区画を将来的にどのように再利用するかは、未定である。せっかく巨勢川調整池の方に東名遺跡の見学者の方がおいでいただくということもあるので、我々としてもこの調整池が果たす治水上の役割というのは1人でも多くの方に知っていただく良い機会だと思っている。先ほど言われたパネル展示等の活用に関しては協力していきたいと思っている。今回の整備に合わせた大幅な改修等については、現時点でははっきりと申し上げることはできないが、治水施設としての巨勢川調整池の果たす役割を広くPRする良い機会だと考えている。
- ：史跡の環境はこの水辺とともにあると思っているので、水辺の環境と一体となった環境整備が理想だと思う。また、今回の佐賀市の事業は、治水事業と一体のものだと考えているので、市と国交省との間での相乗効果がうまく生まれるように、あるいは共同歩調で何らかの目的を共有しながら進んでいける、そういう方向に向かっていただければ、とてもありがたいと思う。
- ：今、治水の話が出たが、現在の東名縄文館は、殺風景なつくりになっていて、そこに何となくパネルを置いただけとかだったら、すごく寂しいものができる可能性がある。段取りは大変かもしれないが、佐賀は水と関わりの深い街だし、クリークや成富兵庫茂安といった治水に関する施設や人物もいるので、ぜひ治水方面にも本腰を入れて、面白いものしていただければと思う。市で行うのか、国土交通省で行うのかは分からないが。  
それと国土交通省にお尋ねだが、今回の提案の中にキャンプ等色々出てきているが、調整池の中でどのくらいまで実施が可能なのか。
- ：正直、通常の河川をイメージしてもらおうと分かりやすいと思うが、高水敷や類似した場所で、基本的にキャンプ等は認めていない。貝塚が保存されている場所も、大雨が降った際には完全に水没してしまうところでもあるため、基本的には、自由使用という範囲で散歩したり、水に親しむといったような利用しか想定していない。実際ここにキャンプや、縄文体験の一環である火起こし、キャンプもデイキャンプなのか、一夜を体験してもらうのかということにもよるが、現状の制度ではなかなかハードルが高い。ただしそういった、色々な利活用の意見も出てきているので、国土交通省としてもどこまで許容できるのかについては、今後内部で検討するという認識でいる。  
現在、佐賀市が準備段階として、年数回の縄文体験を1日限定で行いたいというものに

関しては、社会的実験という位置づけのもと、実施できるような形で前向きに協力させていただいているところである。

- ：その協力関係をぜひ今後とも進めていただいて、より望ましい方向での、一段階、階段を上げるような取組にしていただければと思う。

また、現地に立った時にVRやARなど、目の前に画像として見えてくるような、そういうような仕組みは考えていないのか。

- ：計画段階では考えていた時期もあったが、映像とかではなくて、少し想像できるようなイラストなり、写真パネルを準備したり、あるいは文化庁の調査官からアイデアをもらったのだが、ある位置で透明のシートを重ねると、縄文時代の地形がきれいに見えるような簡易的に準備できそうな方法もあるので、お金がかかる映像よりは、簡易的な方法で代替できないかと考えている。

- ：それは安上がりだが、非常に伝統的なやり方だ。それで1回やってみるのも手だと思うが、あまり成功していない例が多いと思う。

- ：観光としても日常の立ち寄りとしても、人を引きつける要素としては、花、フラワーはすごく大きな影響があると思う。春の桜の時期になると、あそこの川沿いに行きたいとか、ひょうたん島公園のようなヒマワリが咲く時期はあそこに人が集まる、コスモスもそうかと思うし、市外で恐縮だが、神埼市の九年庵の紅葉などもそうかと思う。もちろん植物に造詣がない中で、維持費等をどうするか全然分からないが、そういう何かの花や草原とかで特徴を示すことによって、春の時期、秋の時期に「あそこのコスモスはすごいよね」という具合に、足を運ぶきっかけづくりをしても良いのではないかと感じた。

- ：実は縄文の森は、「NPO法人東名縄文の会」が主体で植樹されたが、同時に巨勢川調整池西側の水路沿いにも桜の木を植樹された。残念ながら植樹した場所が悪くなくて全部枯れてしまった。確かに花を植えて目玉にするという考えも良いと思うし、東名縄文の会のメンバーにも、「千の花の会」という花を増やしていこうとする団体の方もいるので、そういった方と協力しながら検討していきたいと思う。

- ：今日はNPO法人東名縄文の会の方もいらっしゃるが、今話題になったので、何か発言したいことはあるか。

- ▲：先ほどの意見の中に話題性という話があった。私たちとしても、開館はできてもお客さんが来なかったら何にもならないと思っているし、旅行会社等と組んで、旧石器時代から縄文、弥生時代を結んだ、歴史ツアーなどを将来的に企画したいと思っている。今後ともよろしく願いたい。

- ：本日は佐賀県の文化財担当者も参加されていると思うが、何かコメントがあればお願いしたい。

□：私どもは佐賀市と一緒に文化庁協議等も行っているが、やはり一番の課題は現地にいか  
に人を引き込むかだろうと思っている。史跡地がガイダンス施設から離れているという  
中で、ガイダンスから現地までの誘導についてどうするかが課題になってくると思う。佐  
賀県には埋蔵文化財センターが無く、今回佐賀市がつくられるガイダンスと埋蔵文化財  
センターの複合施設は、県内初の施設にもなるので、そういった面でも注目を浴びている  
事業だと思う。引き続き一緒に考えていければと思っている。

●：最後に特に言い忘れた点、これだけは伝えておきたいということがあったら発言いた  
ければと思うが、特にないか。

それでは次回は、令和6年度の7月頃ということで、その時にはコンセプトペーパーも  
含めて公開をしていけるような素材について提示していただき、委員会での合意を得る  
という形になろうかと思うし、また、実施設計に入っていく上で、非常に重要な最初の会  
議になるだろうと思うので、本日出た意見をできるだけ反映させていただいて、次の案を  
作成していただければと思う。

それでは議事を事務局へお返しする。

○：本日の会議はこれで終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。